



西小学校
おおした ゆう き
大下悠樹さん
(七日町)

ぼくが住んでいる町内ではずっと昔からやっている行事が2つあります。

1つは、2月の節分に豆まきをします。大人の人たちが、鬼や七福神などに変装して町内中の家を1軒1軒豆まきをして周ります。竹のぼうをたたきながら家に入ってくる鬼は、小さいころはすごくこわかったです。

もう1つは、3月の春分の日にだんごまきといって、町内のお母さんたちがだんごを作ってくれます。町内にある公園のお地藏様の所にたくさんの子どもたちが来て、だんごやおかしをもらって帰ります。

こういう行事は、町内の大人の人たちが受け継いでやってくれているので、ぼくが大人になってもやっていけるようにみんなですぐにしたいです。

受け継ぐ行事大切にしたい



地域の元気が まちづくりを支える

まちづくりを支えるのは、やっぱり地域の「元気」。住む人が輝いてこそまちも輝きを増していきます。中心市街地を活性化させる取組みは、まだ序章です。

知恵絞って元気なまちづくり

市商店街振興組合連合会
はら なお ゆき
原 尚之さん
(末広町)



昨今の厳しい経済情勢、郊外大型店舗の増加、経営者の高齢化、空き店舗などたくさんの課題の中、私たちは皆様に愛される商店街を目指した取組みをしています。昨年秋には外国人観光客への対応としてヒアリング調査を実施。商店街を楽しく散策でき見やすく使いやすい日英の二カ国語対応の商店街広域マップや、マップと連動したお店を見やすく探しやすいホームページを開設しました。

今後も商店街、地域の発展のために知恵を絞り、元気にぎわいのある商店街づくり、まちづくりができたかと考えています。「住みやすくにぎわいとやさしさがあふれるまち」を目指したこの計画に、市民として大いに期待していますし、積極的に協力したいと思っています。

高山らしい若者の文化も必要

飛騨高山高校
さかもと ゆ み か
坂本由実夏さん
(久々野町久々野)



私は、商業研究部で中心市街地の活性化や地元経済の活性化も視野に入れて「まちづくり研修室SMILE HOUSE山高望」の活動をしてきました。

高山の歴史を振り返ると、何世代にもわたり多くの文化を年輪のように蓄積しながら、人とのつながりがつくられています。私たちはこのような遺産を継承しつつも、高山らしい若者の文化を形成しなければ、中心市街地の再生は難しいように感じています。そのためには大学生や研究者、市民が交流できる「キャンパスプラザ京都」のような若者が集い活動ができる「学び」と「実践」の場などが必要だと感じます。

これまでの活動は皆さんの支えのおかげ。これからも多くの人々と連携を深め創造的な活動をしていきたいと思っています。